

爽風

神戸市シルバーカレッジ情報誌

2025年9月号 第228号

特集
ボランティア活動報告会



「モロッコの坂の途中」 絵画ボランティアグループ 美工31期 大迫 啓子

2	ボランティア活動報告会
7	聴講のススメ 新企画
8	新・学園祭に向けて
10	教室だより（ECO31期・美工31期・食文31期）
12	神戸の魅力再発見（神戸フィルムオフィス） 新企画
14	トピックス（世界一周ひとり旅）
15	イベントだより・文芸サロン
16	事務局だより・グループわ だより・図書室だより・編集後記

神戸市シルバーカレッジ情報誌「爽風」は、カレッジ内の行事・教室だより・サークル活動・トピックスなどを取り上げながら、学生だけの編集により発行しています。「爽風」への情報・ご意見は、次のホームページからお寄せください。
<https://ksc-sofu.net/> スマホでは右のQRコードからご利用できます。

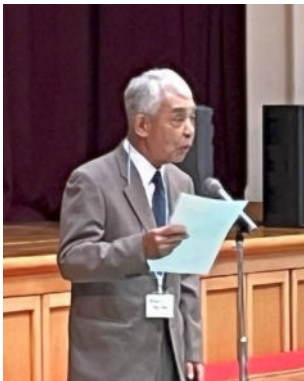


編集・発行 神戸市シルバーカレッジ 情報誌編集委員会

第28回ボランティア活動報告会（6月11日）

はじめのことは

ボランティアセンター代表 池田 辰弥



第28回ボランティア活動報告会へご来場いただき、ありがとうございます。本日はご多忙の中、神戸市社会福祉協議会須磨区ボランティアセンターの松本所長、シルバーカレッジの黒田常務理事にご臨席いただき、厚くお礼申し上げます。

梅雨入りし、雨上がりに輝くバラやアジサイが美しい季節となりました。このような自然の美しさと同じように、日ごろのボランティア活動も地域に温かさと希望を広げています。

今年は1995年の阪神・淡路大震災から30年の節目の年です。震災直後、シルバーカレッジの校舎は救援物資の集積所となり、多くの学生が自主的に救援活動に参加しました。この経験がボランティアセンター設立の礎となり、地域との結びつきや助け合いの精神が強く根付きました。

本日の報告会は、これまでの活動の成果を共有し、未来への新たな一步を踏み出す機会です。カレッジホールでの活動紹介やパフォーマンス、ふれあいホールでの手作り作品の販売、展示・体験コーナーを、ぜひお楽しみください。

また、阪神・淡路大震災の教訓を未来につなぐため、災害支援の募金活動も行っています。被災地の復旧支援や防災活動を強化するため、会場入り口付近に設置された募金箱へのご協力をお願いいたします。

今日の報告会が、地域とのつながりやボランティア活動への新たな意欲を高める機会となることを願っています。最後までごゆっくりお楽しみください。

常務理事あいさつ

こうべ市民福祉振興協会常務理事 黒田 徹

ボランティアセンター主催の第28回ボランティア活動報告会の開催を心よりお祝い申し上げます。

開催にご尽力された池田代表をはじめ、関係者の皆さまに深く感謝いたします。

ボランティアセンターは、神戸市シルバーカレッジの建学の精神「再び学んで 他のために」を实践するものとして、開学2年

目の阪神・淡路大震災が原点になっています。当時、しあわせの村が災害復旧・復興拠点となり、学生の皆さまは被災者でありながら救援活動に参加されました。その精神は、約30年を経た今も学生に受け継がれ、さまざまなボランティア活動へと発展しています。こうした取り組みは、他の生涯学習機関にはあまり例を見ない、当カレッジの大きな特徴です。

本日の報告会を契機に、新しいメンバーが各グループに参加し、グループ間の連携がさらに深まることを期待します。ボランティアセンターの活動が今後ますます発展することを祈念し、私のあいさつとさせていただきます。



終わりのことは

ボランティアセンター副代表 堀内 達也

今日はボランティアセンターに登録している25グループが日ごろの活動を発表しました。パワーポイントでの活動紹介やステージパフォーマンス、ふれあいホールでの作品展示・販売などを通して、ボランティア活動の多様な魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。

また、今回は3月に発生したミャンマー地震の被災者支援のため、募金活動も行っています。

今回の報告会は、3月半ばから準備を始め、各グループから53人の支援者の協力をいただき、本日、無事に開催することができました。裏方として支えてくださった方々、そして表に出たり裏に回ったりされた方々——全ての支援者の積極的な参加がなければ、この報告会は実現しなかったでしょう。この場に53人全員はそろっていませんが、心からの感謝を込めて、盛大な拍手をお願いいたします。

来年以降も、このボランティア活動報告会がさらに発展していくことを願い、閉会の言葉とさせていただきます。



KSC国際交流友の会

①外国人との交流（外国人交流会、海外研修）②日本語学習支援（KICC、KFC、東灘日本語教室での日本語教育、＜公財＞PHD協会の活動支援）、会員の日本語指導力向上支援 ③各種団体との交流事業（しあわせの村夏祭り）、などの活動を行っています。



KSCスポーツ吹矢グループ

社会福祉協議会のボランティア交流会で、この吹矢セットを用いた体験に注目していただきました。

また、老人ホームからの依頼を受け、何度か実施しています。

今後もボランティア活動をみんなと一緒に楽しみながら積極的に進めていきます。



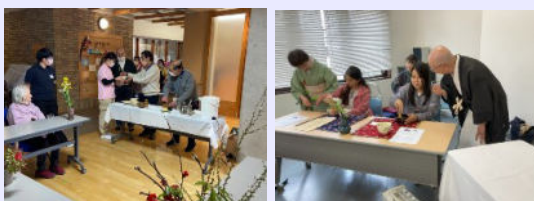
「ガーデニング」グループ

①カレッジ農園で花・野菜栽培 ②カレッジ玄関前プランター花壇の管理 ③しあわせの村障害者支援施設「ワークホーム明友」の花壇および中庭のバラ管理、などを行っています。



KSCボランティアグループ茶道部

茶道部のボランティア活動は、毎月3回、高齢者の介護施設で入所者の皆さまにお点前を披露し、薄茶を楽しんでいただいています。また、国際交流友の会とも協力し、留学生の方々にも茶道を紹介しています。



ボランティア・クッキーの会

作る楽しさ、贈る喜びをモットーに、月1回、会員が焼いたクッキーを福祉施設や児童施設に持参し、友愛訪問をしています。



シルバーケーキの会

男性のみによるケーキ作りを年に3回実施しています。会員が作成したココアケーキはクリスマスにしあわせの村内の福祉施設などに寄贈し、喜んでいただいています。



ボランティア・グループ「こども文化」

ボランティア活動は、OBとともに組織する「むかしあそび研究会」と一緒に幼稚園、小学校、児童館に出向いて、「ブンブンごま」や「あやとり」などのむかし遊びを体験してもらい、子どもたちと交流しています。



KSC英語点字グループ

目の不自由な方々に向け、英文図書を点訳・製本し、主として東南アジア諸国の施設などに寄贈する活動をしています。これまでの延べ寄贈数は1700巻以上になりました。



KSC書道部

OBを中心に神戸市内の高齢者施設、地域施設の17施設で「書道教室」を開催し、喜んでいただいています。



救急救命グループ

全員が市民救命士、救急インストラクターの取得を目指すとともに、率先して応急手当が施せるように訓練、活動をしています。カレッジ内の活動団体への救急講習も随時実施しています。



朗読あかりの会

月4回の例会で朗読練習をし、毎月のように施設を訪問して紙芝居や絵本の読み聞かせの活動を行っています。



KSC人形劇「ゆめ」

人形劇「ゆめ」は積極的にボランティア公演活動を行い、子どもたちから高齢の方々まで夢や癒しをプレゼントしています。そのお返しにたくさんの元気を頂いています。



混声合唱団コーロKSC

OBを含む約180人の混声合唱団です。ボランティア活動のほかに兵庫県合唱祭などに出演しています。毎週月曜日の午後にしあわせの村の研修館ホールで練習をしています。



KSC民謡同好会

毎週水曜日に日本各地の民謡を練習しています。当同好会ではOBとともに老人福祉施設などを訪問して練習の成果を披露しています。



KSCフォークダンスグループ

毎週金曜日にOB約40人と一緒に世界各地のフォークダンスを楽しく練習しています。ボランティア活動は昨年中止になりましたが、今年はビバ！ハロウィンに参加するほか、市内の福祉施設の依頼があれば訪問しています。



KSCマジック同好会

福祉施設や児童館などに招かれ、楽しいマジックで子どもたちからお年寄りまで大変喜んでいただいております。



KSCアロハハワイアンズ

ハワイアン好きの仲間が集まり、バンド演奏とフラダンスを楽しんでいます。

1月に新体制となってから、6月末までの半年間で内部・外部ステージがすでに12回を数えています。今後も月2回ペースで、積極的に出演活動を続けていく予定です。



KSCハーモニカグループ

ボランティア活動として高齢者福祉施設などを訪問しています。哀愁を帯びたハーモニカの音色を皆さまに楽しんでいただいております。



手話ソング

毎週火曜日の練習と、ボランティア活動として福祉施設などを訪問しています。手話で歌詞を表現し、楽しみながら手話について皆さんと一緒に理解を深めています。



KSC男声合唱団

男声合唱の魅力は、大きな音量と迫力、そして低い声のたっぷりした響きの豊かさです。練習日は毎週木曜日です。練習の成果として、ボランティア活動で老人介護施設などへの訪問演奏に取り組んでいます。



KSCイベントぴかぴか隊

神戸まつり、神戸マラソン、ルミナリエ、阪神・淡路大震災1.17のつどいなど、神戸で開催されるイベントの会場整備や清掃に参加し、愛する地元神戸を盛り上げます。OBとともに、毎回150人規模でボランティア活動をしています。



ボランティア木工グループ

ボランティア活動報告会では、OBを含めた販売員の絶妙な話術もあり、明るい雰囲気です。笑い声が絶えませんでした。

これから夏休みのボランティア活動も例年通り計画されており、それらの完遂と秋の学園祭に向けた作品作りをしています。



陶芸ボランティアグループ

介護施設などの皆さんに、作陶指導と対話を通じて心の触れ合いを図り、楽しいひと時を過ごしていただきます。



絵画ボランティアグループ

介護施設などでの絵画制作補助などを通じて、人々との触れ合いの中、絵画制作の喜びを共有する活動や、ハガキやしおり、小作品の販売などのボランティア活動を行います。そのため、OB講師の指導の下、絵画技術の向上を図り、日々楽しく創作に励んでいます。



ケナフの会

ケナフの会は、1年草であるケナフを栽培し、花や茎を使ってスカーフやハンカチの草木染をしたり、紙漉きをして、はぎやしおりを作ったり、茎を使って炭焼きをするなど、楽しみながらボランティアや自然環境保全の啓蒙をしているグループです。



NPO法人 グループわ

グループわ は、シルバーカレッジ卒業生と現役生の皆さんが活動する団体です。

「カブトムシ生育観察会」「夏休み工作塾」「しあわせの村・夏まつり」「学校園支援」などの活動をしています。皆さんも参加しませんか。



カレッジホール



ふれあいホール



聴講のススメ

シルバーカレッジには聴講制度があるのをご存じでしょうか？ご自身の履修コース・専攻以外の授業を受講でき、皆さんの知的好奇心をさらに広げる制度です。「別のクラスの授業を受けるのは、ちょっと気が引ける」「場違いに思われたらどうしよう…」と思って、まだ利用されたことのない方もいるかもしれません。「聴講のススメ」では、実際に聴講した授業の様子や概要、そこで感じた内容をご紹介します。今回は、7月15日の3年生共通授業を聴講しました。

「本当のウクライナを知っていますか？ ～これから日本、そして世界がどうなるのか考える～」

神戸学院大学 経済学部教授 岡部 芳彦

講師・テーマについて



講師は、テレビでもおなじみの神戸学院大学経済学部の岡部教授でした。岡部教授はウクライナ研究の第一人者であり、最近では6月にウクライナへの多大な貢献が認められ、ゼレンスキー大統領より「黄金の心」賞を授与されています。

次に、『ゼレンスキーとプーチンは何をを考えているのか』というテーマに移りました。岡部教授は、ゼレンスキー氏について、コメディアン時代の映像や国際会議でのエピソードを紹介しながら、常に有利な選択をする「機会主義者」であり「何も考えていない」と分析していました。一方、プーチン氏については、ロシア人とウクライナ人がキエフ・ルーシを起源とする単一民族であるという「妄想的歴史観」が行動の背景にあると指摘し、ロシア国内の少数民族間で不満が高まっている可能性についても言及されました。

最後に、阪神・淡路大震災からの「創造的復興」を生かした兵庫県のウクライナ復興支援検討会の取り組みが紹介され、講義は終了しました。

会場の様子や期待

当日は多くの受講生でカレッジホールが埋まりました。

最近はいスラエルによるイラン攻撃やトランプ関税といったニュースに注目が集まりがちですが、ウクライナの直近の情勢が聞けると期待した方も多かったのではないのでしょうか。



講義内容の概要

講義はまず、『長めの自己紹介』から始まりました。6月に兵庫県からの要請でフォーラムに関する文書の署名式にウクライナを訪問した際、「黄金の心」賞を受賞したこと、兵庫県が日本で最もウクライナ支援に熱心であることなどを紹介されました。また、ウクライナの首都の日本語表記を「キエフ」から「キーウ」へ変更する会議で議長を務めたこと、北方領土での交流では、領土問題を前面に出さず日露間の個人交流として位置付けたことなどを、ユーモアを交えて語られました。

受講生の感想

聴講した3年生からは以下のような感想が聞かれました。

- 「前日に発表のあったアメリカのロシアに対する制裁関税の話がなかったので、講義後、岡部先生に直接聞いてみました。『停戦への影響は余りないでしょう。トランプは典型的な“機会主義者”ですから』とのことで、講義でこの辺りの話を聞きたかったです」
- 「テレビや新聞で見聞きするような話だけではなく、専門家だけが知っている情報を聞くことができ、とても面白かった」
- 「ウクライナ情勢がよく分かった。早く戦争が終わって欲しい」

聴講を通して

6月のウクライナ訪問後の講義でしたが、最新のウクライナ情勢への言及は少なかったようです。しかし、ロシアとウクライナ両国の歴史的な国土と民族の関係、複雑で根深い因縁の一端を丁寧に分かりやすく、ときに冗談も交えながら解説されました。両国指導者の人となりや思想的背景を知ることができ、この問題を考える上での良い学びとなりました。

新・学園祭に向けて

シルバーカレッジの秋の風物詩である学園祭は、今年も例年どおりの日程で開催されます。今年度から委員会ではなく学生自治会として運営することになりました。初めての取り組みで立ち上げ時は少数のメンバーでしたが、支援者も加わり準備作業が進んでいます。間近に迫った学園祭に向けて、各委員会の意気込みを聞きました。

学園祭の実施にあたって

健康31期 釣井 基司

今年の学園祭は、7人の委員で「第30回学園祭を開催するか否か」でスタートしました。そこでは開催の方向で準備を進めることになりました。その後、学園祭の現状を知った10人の方々が委員として参加してくださったことで、総務委員会と駐車場委員会を立ち上げることができました。

委員の負担軽減を図るため、作業のスリム化が不可欠と判断し、バザーとキャッチフレーズの募集を中止としました。

例年、学園祭はバザーの収益金をもとに運営し、その一部を村内の各施設に寄付していましたが、残念ながらこれも廃止しました。

しかしながら、「来年度以降の運営費を少しでも確保しておくべき」との意見もあり、初めての試みですが、学生の皆さまに任意での協力金をお願いすることにしました。

このように紆余曲折はありましたが、5月末にはステージ委員会と出店・展示委員会がそれぞれ立ち上がり、現在支援者の方々とともに、楽しく思い出に残る学園祭をめざして準備を進めています。学園祭までもう少しですが、ぜひ皆さまのご協力をお願いします。

総務委員会

ECO31期 古田 説子

第30回学園祭の開催日は10月11日(土)です。

これまでの学園祭スタッフは、各クラスから選出の委員で運営していましたが、今年は「手上げ方式の自治会組織」となりました。



実は前年度末に事務局から「スタッフが集まらなければ、学園祭開催なし」の方針を聞きました。その時点で私のクラブは、学園祭での発表に

向けて練習を始めていましたので、「学園祭中止なら…」と焦

りました。再入学の私は「第27回学園祭の総合委員長」でしたので、思わずスタッフに手を挙げていました。

年度当初集まったスタッフは7人でしたが、この人数でできる学園祭開催が決定しました（今は支援者などに協力いただいています）。例年の「バザー」「キャッチフレーズ」「しあわせの村への寄付」は中止し、「ステージ」「出店・展示」は実施します。よって運営資金はこれまでの積立金を充て、カレッジ生自身が楽しむ学園祭へと改革に邁進中です！資金源だった「バザー」の代わりに協力金制度を考案しました。ぜひ今後のためにもご協力をお願いします。

駐車場委員会

健康31期 高村 英二

駐車場委員 6 人、支援者31人の体制で、鋭意学園祭に向けて準備を進めています。

例年であれば、2年生と1年生主体で活動するところでしたが、今年は当初の立ち上げ時の人数が数名と極端に少なく、実施が危ぶまれる状況でした。



しかしながら、学園祭自体の開催要望は強く、実施する以上はできるだけ多くの学生参加のもと円滑な運営を図るため、3年生を含めた全学年のコース・専攻に支援者を募集することにしました。

募集にあたっては、総務委員と駐車場委員が手分けして各クラスのホームルームを回り、昨年的人数には及ばないものの、参加者を募ることができました。

幸いにも実施にあたっては、先輩たちからの充実した実施記録が残っています。

今後、多少運営管理の変更はあるものの、学園祭当日まで委員と支援者の連携を深め、円滑な運営を図りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

出店・展示委員会

ECO31期 飯田 美紀

学園祭はお祭りです。

楽しい催しにするために私たち出店・展示委員もお手伝いをします。

委員のほとんどが初めての経験ですが、先輩方にお聞きしたりしながら、知恵と力を出し合い、出店展示するサークル



の要望にできるだけ応えられるように話し合い、準備を進めています。

学生の皆さんの作品で、ふれあいホールや2階の教室が埋め尽くされます。

前日の設営日や撤収時は混乱することが予想されますが、その大切な作品が傷つくことのないよう、また事故やけがのないように皆さんもご協力をお願いします。

第30回学園祭をみんなで楽しみましょう。

展示・出店

階	場所	サークル・クラス名	展示・出店
1 階	ふれあいホール	グループわ	展示
		ボランティア木工グループ	出店
		ケナフの会	展示・出店
		ボランティア・クッキーの会	出店
		シルバーケーキの会	出店
		ボランティア・グループ「こども文化」	出店
		KSC書道部	展示
		絵手紙同好会	展示
		KSC川柳くらぶ	展示
		俳句クラブ	展示
		KSC写真クラブ	展示
	エントランス周り	KSC有機野菜をつくる会	出店
		「ガーデニング」グループ	出店
		ECO31期	出店
2 階	調理実習室	食文31期	出店
	学習室1・2	美工31期・32期	展示
	学習室3・4	絵画ボランティアグループ	展示・出店
	学習室7	パソコンクラブ	展示
	和室	KSCボランティアグループ茶道部	出店
	Gw 会議スペース	グループわ	展示

※「展示・出店」、「ステージ」は、8月末時点の情報をもとに情報誌編集委員会です。

最新の情報はプログラム等で確認してください。

ステージ委員会

国際30期 濱野 眞己子

ステージ委員会はステージ出演の裏方を担っています。目に見える仕事は、司会やマイクなどの準備、プログラムの投影です。見えないところでも働いています。放送室では音量や照明の調整をしています。控室に「出番ですよ」と呼びに行くのも、観客の誘導をするのも、ステージ委員会の活動です。

各サークルからの支援者に協力していただき、自身のステージ出演と委員の活動を行うという激務をこなします。悩むのがプログラムの



順番です。準備の大変なサークルは、休憩の後に持っていくたいのですが、休憩は午前1回、昼食時、午後1回しかありません。考えに考えたプログラムに合わせて、班長は委員と支援者に仕事を割り振っていきます。何度も打ち合わせ、練習、確認を繰り返し、最高のステージを目指して裏方稼業に精を出しています。

ステージ

	出演順	サークル・クラス名
午前	1	KSC人形劇「ゆめ」
	2	KSCマジック同好会
	3	KSCフルートクラブ・フルーツパフェ
	4	KSC謡曲クラブ銀謡会
	5	手話ソング
	6	KSC太極拳クラブ
	休憩	
	7	KSCライトミュージック・ウィズ・ユウ
	8	ザ・カスターネット
	9	混声合唱団コーロKSC
	10	アンサンブルKSC
	11	KSC男声合唱団
	12	音文3学年合唱
午後	昼休み	
	13	KSC三曲会
	14	KSCハーモニカグループ
	15	KSCフォークダンス・クラブ
	16	KSC社交ダンスクラブ
	17	朗読あかりの会
	18	KSCオカリナチーム
	19	KSCオールディーズクラブ
	休憩	
	20	KSCアロハワイアンズ
	21	KSCフォークソング・クラブ
	22	ミュージ研
	23	KSC民謡同好会

ECOライフコース

ECO31期 霜出 志郎

校外学習 ～弓削牧場～

私たちECOライフコース2年生は、6月5日に神戸市北区にある弓削牧場を訪れ、校外学習を行いました。現地には10時30分に到着し、まず牧場長の弓削忠生さんから講義を受けました。



講義では、弓削牧場の成り立ちや理念についてのお話がありました。自然と共に生きることを大切に、家族経営で40年以上にわたり持続可能な牧場運営を続けていることが紹介されました。特に印象的だったのは、ロボット搾乳機

を導入していることです。この搾乳機に牛が自発的に入り搾乳され、牛にも人にも負担が少ない持続可能な酪農が実現されていることでした。

また、牧場ではバイオマス液肥の活用も進めており、牛の排泄物を再利用して牧草や野菜の栽培に生かしていることも学びました。これは循環型社会の具体的な取り組みの一例として非常に興味深く感じました。

その後、牧場内の施設を見学しました。清潔に保たれた牛舎や、のびのびと過ごす牛たちの姿を間近に見ることができ、牧場の管理の丁寧さに感銘を受けました。見学後は、グループに分かれて昼食をとりました。牧場で育てられた野菜やハーブを使用した自家製ランチを味わうグループと、持参した昼食を楽しむグループに分かれ、それぞれ思い思いの時間を過ごしました。

余談ですが、弓削牧場のトレードマーク誕生のいきさつを教えてくださいました。弓削さんがチーズ作りを始めた当時は、休みが少なく、お子さんたちをどこにも連れて行ってい

けられないという思いから、1歳、3歳、5歳だったお子さんたちをモデルにして、このトレードマークが生まれたそうです。

今回の校外学習を通して、環境に配慮した持続可能な農業の実践を学ぶことができました。自然と共に生きることの大切さを改めて実感する、貴重な体験となりました。



校外学習 ～神戸市垂水漁港～

7月3日、校外学習で神戸市垂水漁港にある神戸市漁業協同組合水産会館に行ってきました。9時30分から12時20分までの短い時間でしたが、神戸の「食」を支える漁業の現場を肌で感じることができました。

まず、神戸市漁業協同組合の代表理事組合長である山田さんから、垂水漁港での日々の活動についてお話を伺いました。漁師さんたちの苦労や、安全でおいしい魚を届けるための工夫など、普段聞くことのできない貴重なお話に、みんな真剣に耳を傾けていました。



次に、神戸市経済観光局の池本さんからは、市が取り組んでいる農・水産事業についてご説明いただきました。神戸の豊かな自然が育む農産物や水産物を守り、地域経済の活性化につなげるためのさまざまな取り組みを知り、神戸の食文化を支える行政の役割を学ぶことができました。

講義の後には、お待ちかねのシラスの釜揚げ丼の試食です！獲れたての新鮮なシラスをぜいたくに使った釜揚げ丼は、そのおいしさに感動しました。シンプルな味付けだからこそ、シラス本来のうま味が際立ち、みんなあっという間に完食していました。

試食の後には、漁港施設の見学へ。普段は立ち入ることのできない漁港の裏側を見学し、漁船や漁具、水揚げの様子などを間近で見ることができました。そして、この日のハイライトは、活気あふれる昼網の競りの見学です！競り人の威勢のよい声と、次々と魚が競り落とされていく様子は、まさに圧巻でした。漁業の現場の臨場感を肌で感じることができ、大変貴重な体験となりました。

今回の校外学習は、神戸の豊かな海の恵みと、それを支える人々の情熱に触れる素晴らしい機会となりました。漁業の現場で働く方々の努力や、神戸市の取り組みを知ること、私たちが日ごろ口にする「食」への感謝の気持ちがより一層深まったのではないのでしょうか。今後のECOライフに生かしていきたいと思います！

今回の校外学習は、神戸の豊かな海の恵みと、それを支える人々の情熱に触れる素晴らしい機会となりました。漁業の現場で働く方々の努力や、神戸市の取り組みを知ること、私たちが日ごろ口にする「食」への感謝の気持ちがより一層深まったのではないのでしょうか。今後のECOライフに生かしていきたいと思います！

美術・工芸専攻

美工31期 山本 雅子

美工31期は現在男性10人女性20人の計30人で構成されています。女性たちは元気で明るくとてもにぎやかです。男性たちは優しく控えめですが、大事なところでは「愛と勇気のアンパンマン」に変身してクラスの活動をリードし、いつも男女仲良く過ごしています。

普段は個人作品を作る活動が主ですが、31期として卒業生歓送交流会や新入生歓迎交流会を実施するときは、ホームルームで何度も話し合い、それぞれができる仕事を受け持ちました。係ごとに協力して入念に準備し、無事終えたときには、美工31期の力を改めて皆で確認し合うことができました。

授業では絵画と陶芸を学び、毎回新しく習うことにドキドキワクワクしながら取り組んでいます。教室を出るときにはヘトヘトになっていますが、活動中は楽しく夢中になってお互いの作品に刺激を受け合いながら格闘しています。

絵画は、水彩画からアクリル画、油絵にも取り組み始めました。デッサンの構図、透き通った表現、光と影の付け方、遠近感の出し方など、難しいことばかりです。

陶芸は、土の練り方や釉薬の種類、窯の使い方から習い、器や皿を作れるようになりました。今では電動ろくろで制作する作品にチャレンジしています。

釉薬がけは、種類やかけ方によってでき上がりに大きく影響するので悩みます。焼きあがった作品を窯から出す瞬間が楽しみでなりません。

これからの学習もうまくできるかと不安もありますが、新しいことに挑戦する楽しさを持ち続け、31期みんな作品づくりを頑張っていきたいと思います。



食文化専攻

食文31期 藤田 浩

食文化専攻に入学してから1年半がたちました。振り返ると、多彩な知識と実践経験を積むことができ、私の視野は大きく広がりました。特に調理技術だけでなく食材の特性についても深く学んだことで、自信を持って調理ができるようになってきたことは、大きな成果です。

また、食品衛生や栄養学の講義も充実しており、日常生活に役立つ知識を身につけています。

熱心に指導してくださる先生方と、助け合いながら学べるクラスメートのおかげで、充実したカレッジ生活を送ることができ、感謝しています。

1年生の締めくくりとして実施した総まとめ料理では、メニューの決定からレシピの作成、食材の手配から調理まで、すべて学生主体で立案・運営を行い、協働の重要性も実感しています。

現在は、10月の学園祭で提供する料理

に向けて、クラス一丸となって準備に取り組んでいます。

折り返し地点を迎え、これまでの経験を土台に、さらなる技術と知識の習得に努め、健康志向の料理や季節の食材を生かした調理に挑戦したいと考えています。また、興味のある分野をさらに掘り下げて専門性を高めながら、3年生のグループ学習に向けて残りのカレッジ生活も1日1日を大切に、実りある時間となるよう頑張っていきたいと思います。



神戸の魅力再発見

この企画では、私たちの街、神戸の知られざる魅力や日常の中に埋もれている魅力を再発見するため、日々奮闘されている人々や団体などを訪ねていきます。

神戸は、日本で初めて映画が一般公開された地です。今回の取材は、美しい街並みや文化といった神戸の魅力を、映画やドラマ、CMのロケ地誘致を通して国内外に発信する神戸フィルムオフィスを訪ねました。どのようにして神戸の新しい顔を引き出し、多くの人々にその魅力を伝えているのか、神戸フィルムオフィスの土屋さん（写真右から2人目）にインタビューしてきました。

神戸フィルムオフィス ～映像で神戸の魅力を伝える～

プロフィール

神戸フィルムオフィスは、2000年9月に設立された日本初のフィルムコミッション^(注1)。一般財団法人神戸観光局のフィルムオフィス事業部門として、これまで4000本近くの映像作品の誘致・支援に取り組む。製作者にロケーションを提案し、撮影に関する各種申請手続きを代行するほか、撮影時の立ち会いや作品の公開に合わせて神戸のプロモーションを行うのが主な活動。

（注1）フィルムコミッションとは、映画やテレビドラマ、CMなどのロケーション撮影を誘致し、撮影が円滑に進むよう支援する非営利団体。



神戸フィルムオフィスの設立背景や思い

阪神・淡路大震災の5年後の2000年9月、神戸フィルムオフィスは設立されました。

震災直後には神戸の壊滅的な映像が世界中に流れましたが、5年がたち、復興していく美しい神戸の街の姿も映像を通して世界中の人に見ていただきたい、その思いが背景にありました。さらに、映像の力で神戸の街を元気にしたい、市民の皆さまに喜んでいただきたい、という思いも込められていました。

ロケ支援の具体的な内容

具体的な活動は、ロケ地の紹介や許可申請、地元との調整、撮影の立ち合い、公開時のプロモーションといったものです。アルバイトを含めメンバー5人でそれらの業務をこなしています。

支援件数は年度によって波がありますが、映画やドラマだけでなくバラエティや情報番組のオファーもあるので、平均すると年間200件ほどです。2024年は、撮影件数は少なかったのですが、今年はたくさんの問い合わせが入っています。

許可申請でいえば、警察庁から実際に機能しているフィルムコミッションには協力するようにと

いう「通達」が出ていることもあり、兵庫県警も協力的で、「この道路での撮影は難しいが、こっちの道はどうか」といった助言をもらえることもあります。

ただ、何度もお願いして、やっと撮影させてもらったような場所が編集でぱったりカットされることもあり、そんな時はショックです。協力してくれた方々にどうやって説明しようかと思うとつらいときもあります。

エキストラの募集については、「KFOS（神戸フィルムオフィス サポーター）登録制度」を設けています。現在約1万5000人の登録者があり、うち8割が神戸市民です。



地元住人や商店街などの協力

神戸は市民の皆さまが協力的で撮影を断られることはあまりありません。NHKの朝ドラ『おむすび』は水道筋商店街でよく撮影させていただきましたが、商店街の皆さまは本当に協力的でした。例えば、都賀川公園で防災に関する紙芝居を地域の子どもたちが見るというシーンでは、学童の子どもたちや地域の婦人会の方々にもご協力いただき、とてもスムーズに撮影することができました。

神戸での撮影の「魅力」

神戸の魅力はさまざまなロケーションがコンパクトに詰まっている点です。港町の匂いがするところや洋館、坂道や高台などいろんな顔があり、市街地から30分も車で走れば田園風景もあるといった利便性も大きな魅力です。

ロケ地はデータベース化しており、公開しているのは約600か所ですが、これ以外にオフィスビルなどで未公開のところもあります。人気のロケ地は、港と旧居留地の街並みでしょうか。ガードレールがなく電線が地中化されていることから、日本の中でも美しい街並みと言われているのでよく問い合わせがあります。

今年4月の神戸空港の国際化は、海外から直接神戸に来ることができるので、ロケーションを決める際の大きなアドバンテージになっています。

印象深い作品やエピソード

2005年に赤井英和さん主演の『ありがとう』という作品の撮影がありました。阪神・淡路大震災で被災し、一念発起してプロゴルファーになった古市忠夫氏の実話を基にした映画です。震災のシーンも神戸でロケをしたいとの要望がありましたが、震災から10年しかたっていない時期でしたので、市民の皆さまの心情を考えると、どうしても応じることができませんでした。そこで、商店街の火災シーンや避難所のシーンの神戸での撮影はやめてほしいとお願いしました。

今年、震災から30年がたち、震災に対する市民の意識も変化する中で、朝ドラ『おむすび』では避難



『おむすび』の避難所シーン

所シーンのロケもありました。こうした映像が、若い人たちの震災や防災について学びきっかけになればと思います。

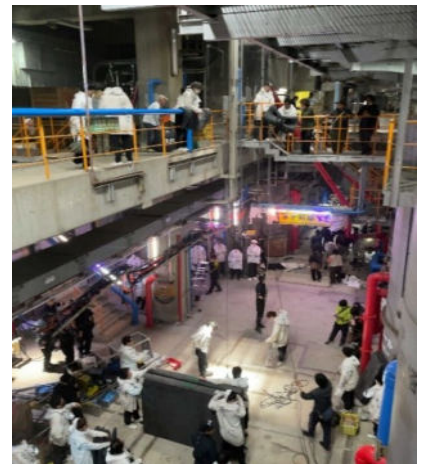


2024年10月に公開になった映画『HAPPYEND』も印象的な作品です。主要なシーンは神戸ロケでした。故坂本龍一さんの息子である空音央さんが監督を務めています。日本での公開は終わりましたが、台湾や韓国で大ヒットし、今後ヨーロッパやアメリカでも公開が予定さ

れていると聞いています。神戸でロケした映画がヒットするのはとてもうれしい気持ちになります。

今後の展望や思い

神戸で撮影がしたいという問い合わせはコンスタントにいただいています。神戸で撮影をしても、どこか違う街や東京の片隅といった神戸以外の場所になることが多いです。やはり神戸を神戸の物語で撮影してほしいという



『はたらく細胞』@苅藻島グリーンセンター
ふだん見ることができない場所でロケ

気持ちがあるので、製作側にも積極的に持ち掛けています。

神戸フィルムオフィスの25年間に先輩方が築き上げてきた思いを引き継ぎ、作品の撮影支援を通して、神戸の皆さまが自分たちの街に対して誇りや愛着を持っていただくことが、この仕事のやりがいのひとつです。



神戸フィルムオフィス

〒651-0087
神戸市中央区御幸通6丁目1番12号
三宮ビル東館9階

TEL : 078-262-1261 / FAX : 078-230-0808

受付時間：平日 9:30～18:00


Eメール


フォーム

神戸フィルムオフィス HP はこちらから



世界一周ひとり旅

国際31期の槌屋さんが3か月をかけた航空機での世界一周旅から帰国しました。実はシルバーカレッジ入学前にも6か月間の世界一周旅をしています。2回目の世界一周旅の体験談を投稿していただきました。



日常では昨日の出来事さえ忘れてしまうのに、非日常である旅の記憶は長く心に残るものです。

そんな非日常を味わうために、スターアライアンスの世界一周航空券を使って、3か月間の一人旅（ときどき友達との旅）に出かけました。

国際31期 槌屋 晶子

非日常を味わう

旅の行き先は、バンコク（タイ）、ムンバイ（インド）、アディスアベバ（エチオピア）、ナイロビ（ケニア）、ハラレ（ジンバブエ）、ケープタウン（南アフリカ）、サンパウロ（ブラジル）、ブエノスアイレス（アルゼンチン）、ボゴタ（コロンビア）、メキシコシティ（メキシコ）、サンフランシスコ（アメリカ）の合計11か国です。

さらに、ハラレからビクトリアフォールズ、サンパウロからクスコ（ペルー）への往復航空券は世界一周券とは別に手配したため、訪れた国は合計で12か国になりました。

今回の旅では、リオのカーニバルを中心に据え、各国に1週間ほど滞在する日程を組みました。

旅の期間中の生存確認と記録を兼ねて日々の様子をYouTubeにアップしていたので、各カテゴリーで最も印象に残った旅の思い出を「一番シリーズ」として、YouTubeのナンバーとともに、まとめたものが下の表です。

① 一番シリーズ ～世界一周旅で最も印象に残ったもの～

カテゴリー	No.	1番印象に残った所、もの、出来事
夕日	6	ワットアルン(バンコク)
日の出	27	ビクトリアフォールズのリバークルーズ
滝	27	ビクトリアフォールズ
ホテル	8	ウェスティン・ガーデン・ムンバイ
サファリ	22	マサイマラサファリツアー
登山	32	テーブルマウンテン
マーケット	33	ケープタウンファーマーズマーケット
珍しい食事	40	クスコのクイ料理
祭り	49	リオのカーニバル
ビーチ	46	コパカバーナビーチ
ダンス	55	タンゴ
遺跡	39	マチュピチュ
物価高	74	サンフランシスコ
スラム	51	ロシーニャ(リオデジャネイロの貧困街)

旅の注意点と言葉の壁

国によっては貧富の差が大きく、ホームレスや薬物中毒の人がいたり、落書きやゴミが多くあったりし、特に治安が悪い

エリアでは、携帯電話やパスポートなどの手荷物には常に気を配る必要がありました。

言葉の壁については、英語圏に加え、南米ではスペイン語も必要でしたが、私は語学が得意ではありません。

それでも、「度胸」とスマホのWi-Fiさえあれば、翻訳アプリやGoogleマップの力を借りて、何とか旅を続けることができました。



リオのカーニバル

旅で得た気づき

この旅で得たものは、初めて訪れる国々の思い出だけではなく。

日本では、水道の水がそのまま飲めること、湯船でゆっくりお風呂に入れること、和食が世界一おいしいこと、日本語で会話ができること、そして日本人として日本に生まれたこと——これら当たり前と思っていたことに、改めて感謝できるようになったことが、大きな気づきでした。

次の旅への想い

機会をみつけて、またいつか知らない世界を見に旅立ちたいと思っています。



マチュピチュ

※槌屋さんの YouTube サイトです。「世界一周旅(1～82)」を視聴できます。



遊海 yuumi

@yuumi2628・チャンネル登録者数 228人・487本の動画

このチャンネルの詳細 ...さらに表示

登録済み



<https://www.youtube.com/@yuumi2628/videos>

※本文の内容をもっと詳しく知りたい方は、こちらから「国際31期通信」をご覧ください。



イベントだより

混声合唱団コーロKSC

こうべシルバー合唱フェスティバル2025

- 開催日：10月7日（火）13時30分
- 場所：神戸文化ホール中ホール
- 参加する合唱団は16人以上で構成され、平均年齢と出場者の過半数が60歳以上という条件です。専門家の講評がいただけるので、コーロの今後の道しるべになるかもしれません。
- 入場無料

KSCマジック同好会

マジックの祭典

- 開催日：10月26日（日）9時～13時30分
- 場所：たんぼぼの家2F 多目的ホール
- カレッジを卒業後も新しい技を習得されている先輩方とわれわれマジック同好会の現役生との夢の競演です。
- 入場無料
- 問い合わせ先
竹内 俊春 TEL:090-2015-3579

KSC謡曲クラブ銀謡会

能にゆかりの神戸をめぐる

- 開催日：10月19日（日）午前9時
- 場所：山陽電車「月見山」駅集合
- 神戸は「松風」「敦盛」「求女塚」など多くの能の舞台になっています。ゆかりの場所をめぐる。歩きやすい服装・靴でおいでください。
- 半日コース、参加無料
- 申込・問い合わせは右QRコードから



KSCライトミュージック・ウィズ・ユウ

GOOD TIMES コンサート

- 開催日：11月9日（日）13時開演
- 場所：たんぼぼの家2F 多目的ホール
- KSC軽音楽部OBと、ライトミュージック・ウィズ・ユウの現役メンバーの演奏会です。
- 入場無料
- 問い合わせ先
ライトミュージック・ウィズ・ユウ代表 籠谷 正人
TEL：090-5016-5354
Email：sei7720129@outlook.jp

文芸サロン

《俳句クラブ》

町おこし会議の席はアロハシャツ
潮騒を遠くさせた霞霞かな
夕風を朱に染めたりし入日かな
梅雨晴れ間血液検査良しと出る
インフィニティ風呂夕風は真朱なり
風呂の窓寸五の守宮と五日間
南風吹く島のポストはレモン色
余生積む余技の俳句の夏期講座
夕風や点灯を待つ巨大橋

《川柳くらぶ》

夢でしか会えない人に日々一歩
バス来ない曜日間違え気づくなり
夢ひとつふたつと消えて歳をとり
恵みにも過酷にもなる雨が降る
田の神に水蓄える恵み雨
財布忘れをレジにて気づき冷や汗を
読経の合い間合い間に雀啼く
いつ逢える近いうちにと嘘ばかり
無銭旅行 妻と世界を地球儀で
自分自身深掘りすればただの人

《応募作品》

明日からはお酒減らすと日々誓う
AIのポジティブチャットがちよつと好き
惜敗に涙溢れる甲子園
夜が更けて月下美人の匂いくる
熱低がついに日本で台風
人まばら本屋図書館消えていく
晴れてるが警報が出て授業無し

岩佐 英和

谷口 裕

山本 成人

佐野 貴代美

笠川 早代美

石井 牧子

中井 芳樹

大高 松男

奥山 繁男

濱田 一歩

濱田 一歩

明石 楽泉

明石 楽泉

右立 利盛

右立 利盛

経塚 シェル

経塚 シェル

戸島 峰

戸島 峰

安田 維之

安田 維之

池田 由美子

宮島 久美子

宮島 久美子

土屋 博子

土屋 博子

土屋 博子

文芸サロンへの投稿や爽風への

意見・感想はこちらから



事務局だより

オープンキャンパス開催

シルバーカレッジでは、令和8年度入学を希望される方を対象にオープンキャンパスを開催します。当日は、施設や授業の見学だけでなく、放課後のクラブ活動やボランティアグループ活動の見学も予定しており、学生の皆さんのはつらつとした姿を見ていただこうと思います。

また皆さんのお知り合いやご家族の方への案内もよろしく
お願いいたします。

日時：11月10日(月)～14日(金)

各日とも午後1時から午後4時まで

※事前申し込みは必要ありません

グループわ だより

2025年「夏休み工作塾」

8月3日、今年は事務局のご協力のもと、神戸市シルバーカレッジを会場に、夏休み恒例イベントとして2025年「夏休み工作塾」を開催しました。午前と午後の部を合わせ、約140組の親子が参加しました。

小学生向けの「工作塾」では、参加者（小学生と保護者）が、シルバーカレッジの1階と2階に設けられた会場で、10種類の工作品のコースから3種類を選びました。指導にあたった「グループわ」の活動メンバーの説明に耳を傾け、また質問を投げかけて、完成をめざし一生懸命に課題に取り組み、思い出に残る楽しいひとときを過ごしました。

昼食時にはカレーのキッチンカーも登場し、食堂も開放され、参加者は思い思いにランチタイムを楽しみました。まさに「世代を超えた学びと交流の場」を体現できるイベントになりました。

今回はさらにパワーアップし、多くの工作好きの小学生に参加してもらい、世代を超えた交流の輪を広げていきます。



図書室だより

図書委員がいるのに「休館」?

図書委員が図書室にいるにもかかわらず、本の貸し出しや返却などのカウンター業務を行わず、休館となる日があります。実はその時間、棚卸しをしているのです。今年は、7月25日（終日）と28日（午前中）がその日でした。

約100人いる図書委員のうち半数が参加して、割り当てられた時間帯にそれぞれのグループが作業を行いました。

作業は、書棚から本を取り出し、スキャナーでバーコードを読み取りながら、蔵書が紛失していないか、また目録の記

述と一致しているかなど、すべての蔵書を点検していくのです。

実際に作業をしていると、書棚の高い位置にある本や重い本の出し入れにはかなり体力を使いました。

またバーコードを2回読み取ってしまうなどのトラブルもあり、思いのほか時間がかかりました。

例年は年度末に実施していましたが、今年から図書委員が集まりやすい夏休み前の7月末に行っています。

皆さま、すっきりと整理された図書室にお越しください。

編集後記

◆9月号では、「ボランティア活動報告会」を特集しました。関係者のあいさつにもあるように、ボランティア活動はシルバーカレッジの大きな特色であり、強みとなっています。これは、30年にわたる先輩方の積み重ねの成果です。その思いをしっかりと受け継ぎ、次代へとつなげたいと感じました。

◆開催が危ぶまれた学園祭は、新たに学生自治会として運営されます。奮闘する委員や支援者を取材しました。

◆新企画として、「聴講のススメ」と「神戸の魅力再発見」を掲載しました。「聴講のススメ」では、自身の履修コースや専攻以外の講義を受講できる聴講制度を取り上げています。「神戸の魅力再発見」では、カレッジを飛び出し、神戸の魅力を発信する団体や個人を取材しました。調べてみると、思いのほか多いことに気づかされました。

情報誌編集委員会